



神奈川県立港北高等学校  
同窓会  
平成19年1月1日発行

## 「同窓会のさらなる

### 発展を期待して」

#### 神奈川県立港北高等学校

校長 伊藤 清春

港北高校は、西に鶴見川が流れ、光と緑にあふれる港北太尾地区の恵まれた豊かな自然の中に位置しています。新横浜や東京方面へのアクセスも便利で、とても素晴らしい立地環境の中にある学校だと思えます。生徒たちは素直で活力があり、高校生活をエンジョイしながら、伸びやかに自己実現を目指しています。学校の開校は昭和四十四年で、私が神奈川県立高等学校の教員として採用された年でもあり、港北高校との出逢いの妙、不思議な縁を強く感じています。

さて、私が本校に着任したのは平成十五年四月です。同窓会の活動が大変気になり係りの教員に伺ったところ、会長さんの多忙さや

他の役員との連携が途絶えている旨を知りました。開校以来、会員が一万三千人を越える同窓会としては寂しいとの思いを強く持ちました。

同窓会は卒業生と在校生を結びつけ、伝統の中に若い力を取り入れながら躍進していく母体でなくてはなりません。そこで、昨年度現役員に集まっていたいただき協議をした結果、新しい世代を入れた新メンバーでの新たな港北高等学校同窓会がスタートしました。本校4期生の加藤新会長さん以下、本校でかつて教鞭を取られた方々を中心に、規約の改正や今後の活動計画が進んでいます。また、ここ数年の間に卒業された若い世代も役員に加わり、新しい視点での同窓会運営のあり方についても検討が進んでいます。新体制はまことに頼もしいかぎりです。文字通り、同窓会にふさわしい活動が開始し始めた感を強くしています。今後、

卒業生と在校生との結びつきを強める活動をさらに展開して頂きたいと思っています。また、これからの本校の発展のためには、同窓会からの更なるご協力ご支援が不可欠であると考えています。

本校は、二年後には創立四十年を迎えます。確固たる伝統を築いていくことと同時に、未来に対しても可能性を広げることができると期待されています。伝統と躍進をあわせ持つ実りある今後の活動を同窓会に期待しまして、港北高等学校同窓会へのエールとさせていただきます。

## 「新会長就任あいさつ」

### 会長

#### 4期 加藤 務

みなさんはじめまして。平成十七年九月より神奈川県立港北高等学校同窓会長になりました第4期卒業生の加藤です。よろしくお願ひ申し上げます。

さて、港北高校同窓会は、川辺前会長の下、会員名簿の発行などの活動を通じて、長い間卒業生相互の連絡に助力してまいりました。しかし、港北高校創立三十周年の折りに会員名簿を作成・配付して以来、会長の体調不良や運営費の不足等もあり、目立った活動のないまま五年余りが経過しておりました。

そこで、新役員による体勢の立て直しを強く希望する会長の意を受けた三村事務局次長（現事務局長）が中心となって同窓会の活性化を図ろうと、有志を募り、昨年九月の臨時総会において承認を得て、現行役員による新体制を発足させました。

その後、私たち役員は、同窓会の顧問である伊藤校長の全面的なご理解と同窓会担当の基田先生の多大なご協力を得て、様々な取り組みを進めてまいりました。

1つ目は、新規加盟会員への同窓会の趣旨説明及び勧誘の再開があげられます。第三十五期卒業生の皆さんを対象に、まず書面での趣旨説明を行い、その後、卒業式の予行練習の際に、会長として直接説明する機会をいただきました。2つ目は、同窓会規約の改正があります。すでに一万人を越える会員に対して、総会の開催結果をはじめとする運営状況等の連絡手段を整えるため、卒業期毎に従来からのクラスを代表する幹事に加え全幹事を代表する常任幹事を設けました。また、総会の開催日を従来の五月から九月の第一土曜日に固定化しました。これにより、

役員はもとより、多くのみなさんの参加が期待できるようになりました。過日開催した平成十八年度総会の折には、伊藤校長からも新会員（当該年の卒業生）は、全員総会で会えるようにしようとのご発言もいただいております。3つ目は、既に少し触れましたが同窓会総会の開催があげられます。久しぶりに開催した総会で、たので、参加は多くはありませんでしたが、それでも各期の常任幹事や幹事に加え、一般会員の方もいらっしゃいました。特に、三月



正門前

に卒業したばかりの新会員が十名ほど参加され、会の将来に光が射したような思いでした。

4つ目は、現在みなさんがお読みになっている「会報」の発行です。今回の内容は、まだまだ満足いくものではありませんが、会員のみなさんへの運営状況の報告は勿論、これから同窓会員となる卒業を控えた3年生のみなさんに同窓会への理解と関心を深めていただくことができると考えております。

これらの取り組みによって、いっさらからは同窓会の形が整ったかとは思いますが、同窓会員相互の連絡体制の構築や活動の基盤となる財政計画など、課題は山積している状況ですが、同窓会ホームページの開設など、アイデアを持ち寄り活性化に向けて取り組んでまいります。そのためには、新鮮で斬新な感覚をもった若い方たちの運営参加が特に必要と考えます。

みなさんのご理解をいただくとともに、ひとりでも多くの方のご協力いただきますようお願い申し上げます。会長就任のあいさつとさせていただきます。

## 役員紹介

### 副会長

#### 4期 葛岡 美佐男

高校で音楽の教員をやっています。平成十一年から五年間は港北高校に勤務し、現在はとなりの新羽高校にいます。

港北高校在籍中はコーラス部と演劇部に所属していました。入学時にはいわゆる普通の有名大学に行こうと思っていたのですが、部活に力を入れ過ぎたのか選択の余地も無く、当時の音楽の先生にも「もう諦めたら」と言われ、音楽大学に進学し、現在に至ります。微力ながら同窓会運営のお手伝いをするつもりになりました。どうぞよろしくお願いします。そして、皆さんも是非参加してください。

### 副会長

#### 11期 若菜 章宏

高校時代という、思港祭で人形劇やハミリ映画を作成したことを思い出します。その後、教員として平成五年より十五年の十年間母校に戻り、数学を教えることが出来ました。そんな中で生徒に対し『もう少し頑張れば、もっと良く

なるのに』と常々感じていました。時が経ち先生方は変わってしまいましたが、港北高校を思う気持ちは皆同じだと思えます。今後はこの同窓会が次の世代にうまく引き継がれていく事を期待しています。

### 書記

#### 15期 斉藤 雅明

現在、岸根高校に勤務しています。高校時代は青木款二先生にバレーを通して面倒を見て頂き、大学進学後もバレーを続けることができました。大学時代は、近くの釜利谷高校へコーチに通い、そのまま採用され、平成三年に全国制覇を経験しました。今いる岸根でも平成十七年に全国大会出場をすることができました。いつも部活指導に忙しい日々を送っています。

### 書記

#### 32期 黒木 剛

今回、在学時の先生方に推薦され新しく同窓会書記をやらせていただきます。港北高校はその校章の通り、桜がとてもキレイな学校だった事が印象に残っています。また、校風・環境共にとても楽しく三年間が過ごせた場所でした。

### 会計

#### 33期 福沢 次郎

今回、同窓会委員の会計になりました福澤です。現在、都内の大学に通っています。来年度の六月には港北高校に教育実習に行けることが決まり、このように母校と関わりがもてていることをとても嬉しく思っています。高校では野球部での時間と生徒会長として様々な行事で騒ぎ回っていたことを思い出します。この仕事を通して、ささやかではありますが母校のさらなる発展の力になればと考えています。よろしくお願いたします。

### 会計

#### 22期 大橋 恵美子

元・担任の先生からのお断る事も出来ず…(´)始めは軽い気持ちで引き受けましたが決める事も多く責任重大!!(´)月一回の役員会話し合いも、真剣で…私もやる気モード全快!!少しでも力になれば☆と思っています。不手際な事も多々あると思いますが、宜しくお願いします。

### 会計監査

#### 6期 植田 治

六期のサッカー部でした。同窓会活動の再開に少しでもお力になればと思っています。とは言うものの加藤会長をはじめ役員の方さんにはおんぶに抱っこに肩をまかせます。末永い活動をいろいろな年代の卒業生が担っていただけるような会にできれば素晴らしいと思っています。よろしくお願いたします。



役員達の仲の良さの秘訣は…(笑)



# 会計監査

22期 岡野 政史

仕事から、担任だった先生に会う事も多く、頼まれた同窓会役員…。多少の説明はされてもピンツと来ないまま話し合いの場へ…。いろんな話を聞いたりの意見をしたり難しい事も多く大変ですが、頑張っていくので宜しくお願ひします。

## 同窓会員の近況

同窓会の再スタートを記念して各方面で活躍する同窓会員の皆さんの近況報告をリレー方式で掲載していく予定です。

### 横浜国立大学大学院工学研究院

助教授 山本 勲

4期 三村 一郎  
高校時代陸上競技部に所属してました。昭和五十七年に港北高校に赴任し、十二年間教師として勤務しました。先輩に同窓会に協力してといわれ、同窓会の事務局に名前を連ねました。今回、役員改選に伴い事務局長という役割をやらせていただきます。教員として二十周年にかかわり、港北高校では、生徒として又教員としていろいろと学ぶことが多く自分の財産になっています。

まずは同窓会誌発刊おめでとうございます。同窓会には様々な年代の方がおりますので、有機的に組織されて有効に機能すれば、情報源として、また実質的な活動の場として、卒業生と在校生にたいへん有意義になることが期待できます。

まず。学部4年、大学院修士課程2年、大学院博士課程3年で、1年生から9年生までが在籍しています。1年生のヤサシイ熱力学から大学院生の極限物性物理学というヤヤコシイ科目まで、座学、演習、実験の授業を受け持っています。今年はいわゆる「ゆとり教育」世代の新入生に対応するため教育カリキュラムを大幅に変更したので週に6コマ程度、ちょっと多めな上に、新しい科目の授業準備が大変でした。最近「授業評価アンケート」でも教育業績が評価されるため教員は授業準備に大忙しです。

教育業務の第二は、4年生の卒業論文、大学院生の修士論文、博士論文の指導です。例えば4年生は、四月から配属された研究室で教育訓練を受け、クリスマスと正月返上で実験を行い、二月までの十ヶ月で卒業論文を仕上げるように指導します。特に、これからの寒い時期は私も休日返上が続きま

大学院生にテーマを与え、一緒に研究を進めていきます。時間をかけて丁寧に成果をまとめ上げ、論文誌や国際会議で発表します。ネイチャーやサイエンスなど超々有名誌にも投稿しますが、未だ載せてもらえません。ネイチャーにもノベル賞にも縁がないのが、何万人もいる普通の学者の姿です。同じ研究でも、大学での研究の主戦力は大学院修士過程の学生なので2年で入れ替わってしまうことが宿命であり、内部で人を育てることができる企業との大きな違いです。この点を考えながらテーマを選び、進むべき方向を選ぶセンスが要求されます。

質を維持することに必死です。入口に対し出口の話をする、工学部卒業生の70%以上が大学院に進学します。大学という職場環境は比較的自由な環境だと思えます。上司がいなしいし、正式に裁量労働制が導入されたので勤務時間は決まってい(もちろん残業代は大昔からありません)。居室で風寝もできる一方で、自立と自律と成果が求められます。仕事は充実しているといえますが、別の表現を借りれば、ギチギチ目一杯(笑)。



懐かしの購買部

さて、現在の活動を紹介せよとの依頼です。子どもが大学生になって地域や学校の活動から離れたので仕事のことを紹介することにします。私は横浜市保土ヶ谷区にある横浜国立大学に勤務し、工学部の知能理工学科というところで助教授をしている化学ヨリの物理学者です。大学教員の仕事は大きく分けて「教育」と「研究」ですが、実は3つ目に「その他」という裏事情があります。教育業務には第一に授業があり

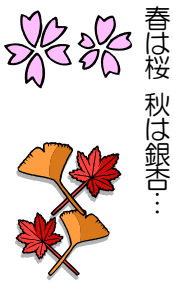
今年4年生を4人受け持っています。エンジンの力カが遅く、ちょっと心配ですが、毎年なんとかなっています。大学での研究は、ある中心的なテーマを追求できるように、大

ほかの業務として、各種の委員会があります。学科の問題を扱う教室会議、学部全体の教授総会、年度によって異なりますがいくつかの委員に任せられ、その委員会の資料作成などに時間をとられます。例えば入試委員としては、編入、推薦、AO、センター、前期後期、大学院修士、大学院博士、二次募集など年間を通じて数多くの入試に関わります。大学はいわゆる「全入時代」を迎え、大学入

定員確保はもとより入学者の高い



昇降口前



春は桜 秋は銀杏…



# 「大倉山と川沿いの 港北高校の自主性」

立教大学大学院

ビジネスデザイン研究科

24期 黒川 淳

かれこれ十五年前の事となりま  
すので、港北高校に入学して驚い  
たことについて記憶をたどりなが  
ら書き留めようと思います。一番

印象に残っているのは、体育祭の  
応援団です。先生から強制される  
わけでもなく、生徒達が自主的に  
集まり放課後や部活後になって校  
内や校庭、太尾公園、大倉山記念  
館の前で学年やクラスを超えてダ  
ンスの練習を行っていたことは、  
高校に入ったばかりのことでもあ  
ったので高校生って大人だと思  
わされたことを今でも覚えていま  
す。そうした放課後に行う何回も

の練習が体育祭に華を添えていま  
したね。当時はただ単純に楽しか  
っただけなのですが、卒業して随  
分経った今になって思い返すと、  
それは今日のボランティア活動で  
あったり、NPO活動、会社にお  
いては新入社員や部下を育てるに  
あたったの気持ちの下支えだった  
りします。

大倉山記念館では今年で二十二

回を迎える秋の芸術祭というもの  
があります。そこにも港北高校吹

奏楽部が参加していて、大倉山記  
念館を背にした演奏は絵になるこ  
ともあり多くの聴衆による人集り  
となっていました。高校在学当時  
に聴きに行ったことがあり、今年  
もまだ続いていてくれたことに高  
校の卒業生として少し自慢気な気  
分にさせてくれました。そして、

大倉山は全国的な少子高齢化の流  
れに反して子供が増えている特異  
な地域でもあります。今年になっ  
て全国でも珍しいNPO主体の子  
育て支援の施設が作られ子育てマ  
マの情報交換やおしゃべりの場所  
として毎日小さな子供を連れて多  
くの子育てママ達が利用していま  
す。ここにも港北高校の生徒がボ  
ランティアとしてお手伝いしてい  
たことに驚いたと共に意外な所  
で後輩に会うことができ嬉しかっ  
たことでもあります。そうそう、  
地名も来年から太尾町から大倉山

に変わるんですよ。大倉山の町も  
久しぶりに歩くと結構変わってい  
ますので、是非ともこの機会に母  
校である港北高校に足を運んでみ  
るのも面白いと思います。思い立  
ったが吉日ですね。

さて、最後に自己紹介を踏まえ

て、現在は社会人を経て再び学生  
に戻りなぜだか大倉山の地域研究

を行っております。研究を進める  
にあたり大倉山の歴史に触れる機  
会がありましたので簡単となりま  
すがお伝えしたいと思います。港  
北高校が位置する場所は開校当時  
まで鶴見川と鳥山川に挟まれた低  
地であったため、周囲の雨水が集  
まってしまふことによる水害の脅  
威にさらされていた場所であるこ  
とを知りました。しかし、住民の  
自主的な行動により水害を抑える  
努力をし、集中した雨水を強制的  
に川へ排水する機能を備えた下水  
処理場（港北高校の隣にあります  
ね。）を作ったことや、鳥山川を  
暗渠にして緑道のある太尾新道と  
して整備することで、大昔からの  
水害の脅威を鎮めた背景があるこ  
とに改めて感心させられました。

そんな場所にある高校だからこそ  
自主性が培われるのだろうとこの  
同窓会会報のお話があったときに  
思いましたので書き添えさせて頂  
きます。

大倉山といえは梅林



## 私の高校生活での 一番の思い出は部活動です。

35期 村西 由衣

私はバレーボール部に所属して  
いました。この三年間はとても濃  
いもので、互いに厳しく、時には  
支え合いながら努力してきました。  
その結果、技術も成長し、競り合  
った公式戦でも向かっていける精  
神力もつきました。

中学の三年間は陸上競技部で、  
バレーボールは高校に入ってから  
と初心者だったので周りの人に追  
いつけるように一生懸命頑張りま  
した。今までの私は自分に負荷が  
かかるかすぐに甘え、目の前のこ  
とから逃げてばかりでした。でも、  
ここではそんなことは見逃しても  
らえず、弱い自分や幼い自分と向  
き合わなくてはならないこともし  
ばしばありました。

二年生になると部長という大役  
を任せられ、部をまとめ引っ張って  
いくという大きな仕事にも挑戦し  
てきました。仲間に自分の考えが  
伝わらなったり、仲間が辞めて  
いったりといういろいろな困難にぶ  
つかってきました。でも私は決して  
あきらめずに頑張りました。それ  
は自分に負けたくないと思ったか  
らです。だから、何事もプラス思

考で取り組みました。

そしてその結果、数々の困難も  
乗り越え、最後の公式戦では今ま  
で勝てなかったようなチームに勝  
てました。  
これらの経験は私にはとても大  
きな自信になりました。

卒業してからは三十五期生の代  
表として同窓会役員を務めること  
になりました。  
初めての顔合わせで一期生から  
の先輩方とお話する機会があり、  
いろいろと話をしていくうちに  
『この仕事は楽しいかもしれない  
!!』と思えるようになりました。  
これから、どんどん積極的に意  
見を出し参加していきたいです

購買部メニュー

品名	価格
タピオカ	¥110
ココアパン	¥120
バナナパン	¥150
チョコパン	¥170
フルーツパン	¥200
...	...